

商工会  
🏠

## ピンチはチャンスに変えることができる

牛久市商工会 会長  
**飯島 邦昭**  
いいじま くにあき



昭和23年生まれ。牛久市商工会7代目会長。趣味は家庭菜園と旅行。現在は妻と犬2匹と暮らしている。

牛久生まれで、家族同様の近所づきあいをしてきたという飯島さんは、幼少の頃は牛久沼に泳ぎに行ったり、近くの山でウサギの餌を探したりと、自然の中で遊んでいたという。「昔は牛久沼でよくシジミが採れたんですよ」。

社会人となり、一度は都内勤務を経験したものの、牛久に戻って家業を継ぎ、平成21年に57歳で商工会長に就任。大切にしている言葉は「分析をしる、欲をかくな、勝機を見つけたとき勝負しろ」。山本五十六や上杉鷹山の考え方に賛同する。副会長時代の平成17年には市内中小企業の商工会への加入率が51・3%まで落ち込んだ。当時の理事たちが一丸となり、この危機をわず

か2年で挽回。430超の新規事業所を獲得し、加入率は66・5%となった。会員増強部門で全国一位となり、他県からの視察や講演依頼が殺到した。

「ピンチはチャンスに変えることができる」と語る飯島さんの眼差しはとて

も力強い。平成21年に会長となつてからも、加入率は6割を維持している。「現在の牛久の商工業の課題は後継者不足。小規模企業振興基本法の利点を最大限活用して商工業を盛り上げたいですね」と語る飯島さんは、事業者からの相談に乗る日々を送る。

最後に「失敗を恐れずに、もっと挑戦してほしい」と若者にエールを送った。

# 支える人たち

行政区  
👤

牛久市区長会 会長  
**岩野 忠男**  
いわの ただお



昭和18年生まれ。佐賀県出身。高校生時代は自動車部で車を分解して組み立てることをしていた。現在は妻と二人暮らし。

## 共助の心を！

佐賀県出身で子どももの頃から機械いじりが好きだったという岩野さん。就職のため上京し、牛久に住み始めたのは昭和49年のこと。「縁が多く、のんびりした牛久が好き」。都内勤務を続ける傍ら、平成19年4月に行行政区長に就任。「牛久市区長会では、さまざまな行政区の方々との面識が増え、親睦を深めることができることに喜びを感じる」という。

昨年、牛久市区長会長に就任した直後にネパール地震が発生。「何かできることをしたい」という思いで、区長会に義援金募集を働きかけた。その結果、現地では半壊した学校の改修工事が進んでいる。

また子どもが大好きで、夕方には保育園で子どもたちのお世話をし、小学生の下校の見守り活動も続けている。活動のキーワードとして「共助(きょうじょ)」を掲げる。「自治会に入るメリットとして、にわかにはリットとして話せることはありません。しかし、自治会活動を通じて日常的に地域内住民同士でつながりをもつことで、災害時や緊急時などの困った時に助け合える。そのような共助の間柄をつくるのができると思います」と岩野さん。

若い人たちは、「積極的に地域の行事に参加してほしい。毎日忙しく大変だとは思いますが、ぜひ行政区の活動にも参加してほしいです」と語った。

牛久市消防団 団長

# 山岡 恒夫

やまおか つねお



昭和25年生まれ。牛久市井ノ岡町出身。現在、茨城県議会議員5期目を務める。その傍ら農業を営む。小・中学校、高校のPTA会長も経験。妻と二人暮らし。趣味は読書。近ごろは孫との将棋を楽しむ日々を過ごす。

消防団



## 人と人をつなぐ消防団

昭和49年、23歳のときに牛久市消防団第22(井ノ岡)分団に入団。「入団当時は牛久消防署がなく、地域で起こった火災は地元の消防団が出動し、消火活動を行っていました」と当時の苦労を話してくれた。消火活動以外にも行方不明者の捜索や夜警も行い、地域の防災防犯活動を行ったという。その後山岡さんは、平成4年から牛久市消防団の幹部となり団員の指導と消防団の運営に携わってきた。そして平成26年度から牛久市消防団長を務め牛久市消防団の統括をしている。

近年は、団員の減少が消防団の抱える大きな問題の一つ。OBが再入団する分団も少なくない。地域外での就労により、新規の団員

の確保も難しい。「消防団の活動は大変なものと考えられていますが、できる範囲で、無理なく活動してもらえればいいんです。もっと気軽に地域に仲間を増やす感覚で入団してほしい」と思いを語った。

その一助のため牛久市は動き出す。今年4月から牛久市役所消防隊を発足させた。団員減少と平日昼間の消防力低下を助けるためだ。「消防団は消火活動だけをしているわけではありません。地域の祭りや行事に参加し、まちおこしの一端を担っています。そこから人と人の絆が生まれます。街を守ってきた消防団。これからもみんなが仲良く暮らせる安心・安全な街を目指したいですね」

# Interview

# 牛久を

特別インタビュー

牛久市校長会 会長

# 大竹 薫

おおたけ かおる

教育



## 子どもの笑顔が輝く学校、牛久市

「心身ともに成長が著しい、小中学生は日々変化することができるとは教員としての最大のやりがい」と語るのは牛久第一中学校校長を務める大竹さん。教員になり38年。血気盛んな子どもたちの成長を支えてきた。「子どもたちと理解し合えず、苦しい時代もあった。子どもたちを救いたい思いで必死でした。彼らが成長し、一番の理解者は先生だった」と言われたときは涙が出た」と全力で子どもたちに関わった日々を振り返る。

牛久市に赴任して今年で11年目。牛久市の子どもたちは常に生き活きとしているという。「その背景には学び合いの授業があります。授業で友だちや教職員との人間関係を築くことで子どもたちの顔は輝いています」。牛久市では子ども、保護者、地域住民、教職員が共に学び育ち合うまちを目指している。「本校でも子どもたちが学校以外で活躍できる場を設けています。小学校や福祉施設での読み聞かせ・ボランティア活動を行い、地域とのコミュニケーションを図ることで社会性を育てています」と語り、社会性を培わせるのも学校の役割だと話す。また、市の指導方針を受け、小中一貫教育を目指し、小中連携事業を推進している。

「牛久で教育をと思える学校づくりをし、市内外へ牛久の教育の素晴らしさを発信していきたい」と今後の抱負を語った。

「牛久で教育をと思える学校づくりをし、市内外へ牛久の教育の素晴らしさを発信していきたい」と今後の抱負を語った。



昭和31年生まれ。旧北浦町(現行方市)出身。自然の中幼少時代を過ごす。母親の薦めや中高時代に影響を受けた先生が多かったことで教員を目指す。現在、牛久第一中学校校長。